

## ◎ 今月のトピック

### ◆きのこ栽培講習会が行われました

1月26日に下郷町林業振興協議会主催による「きのこ栽培講習会」が下郷町水門公会堂などで開催され、11名が参加しました。

講習会では、講師の(財)福島県きのこ振興センターの渡部指導課長より「きのこの生理生態と栽培方法」についてお話があり、きのこは野菜などを扱うというよりも動物を扱うのと同じ感覚で扱うこと、また、それぞれのきのこの生活の仕方により栽培方法が違い、きのこの好む環境を作らないと発生してこないこと、などをわかりやすく説明されていました。

講演後、数多くのきのこを栽培している下郷町の渡部善一氏のきのこ栽培作業場で、殺菌から植菌及び培養について実物を使いながら細部にわたる解説がなされました。

参加者からは、「殺菌の重要性や植菌の方法など理解できた。自分のやり方を見直したい」などの感想が聞かれました。



玉切られた原木を見ながらの研修

### ◆只見町でグリーン・ツーリズムモニターツアーが開催されました

1月21日から23日にかけて、只見町グリーン・ツーリズム推進協議会が中心となり、2泊3日の日程でモニターツアーが実施されました。

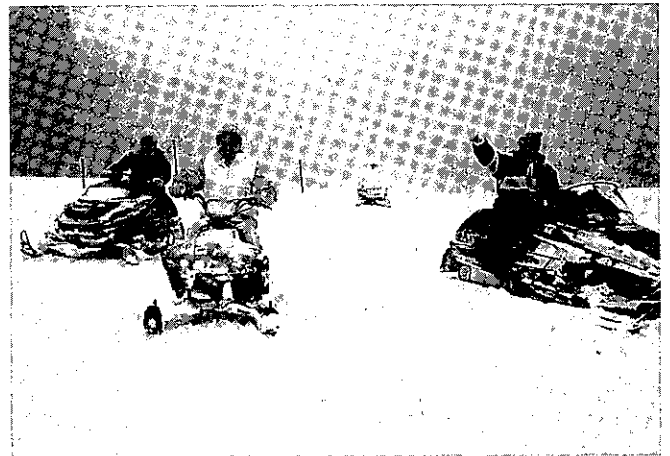
首都圏などから、25名の参加があり、初日はスノーモービル体験、2日目からはつる細工体験をメインに、もちつき体験、そば打ち体験などが

行われました。なかでも、スノーモービルは雪国ならではの体験とあって、参加者たちは大よろこび!

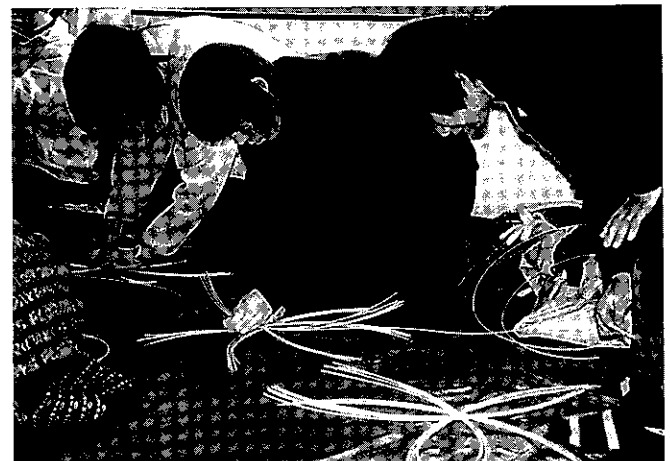
初日は、あいにくの大雪に見舞われましたが、都会から来られた参加者には、かえって好評を得ていました。

参加者からは、冬の只見を満喫できたとの声も多く、成功のうちに終わりました。

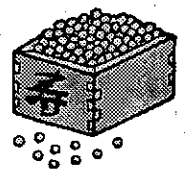
今回のツアーで、今年度の南会津地方グリーン・ツーリズム推進協議会が企画した全4コースのモニターツアーはすべて終了し、合計98名の方が南会津を訪れました。



雪の中を疾走、気分爽快!



つる細工で素晴らしい? 作品を作りました



◆うつくしま未来博参加プログラム「イベント第2回『ふれあい民話のつどい』が開催されます

2001年7月7日～9月30日まで開催される「うつくしま未来博」では、「民話」を通して21世紀に伝承したい福島の民俗文化をアピールするパビリオン「からくり民話茶屋」を展開する予定になっています。この度、参加プログラムとして、イベント第2回「ふれあい民話のつどい」が開催されることとなりました。当地域からも、只見町の馬場タニさんが「民話コンサート」に出演することになっております。未来博を成功させるためにも、みなさん振るってご参加ください。

と き：平成12年3月26日（日） 午後1時～午後3時（開場／12時30分）

と ころ：会津大学講堂（会津若松市一箕町鶴賀 TEL.0242-37-2509）

内 容：＜民話コンサート＞

・語り

1部／馬場 タニさん（只見町） 「山伏ときつね」「猿と蛙（ビッキ）他

2部／後藤みづほさん（大玉村）、引地ハル子さん（梁川町）、川島英雄さん（会津若松市）

・紙芝居

五十嵐邦子さん（湯川村）

・腹話術

鈴木 禮子さん（会津民話会）

＜ふれあいトーク＞

「なぜ、未来博に民話があるの？」

入場料：無 料

お問い合わせ

うつくしま未来博

「からくり民話茶屋」

推進事務局（企画室・コア）

郡山市柏山町3番地

TEL.024-961-7111

★地域紹介コーナー

・・・伊南村・・・

「伊南村の森林を守るために」

伊南村農林課 平野 貴司

伊南村は林業労働力の高齢化と林業後継者不足により森林林業の維持・継続が危惧されつつある中、平成7年度より林業の担い手育成対策事業をスタートし、森林組合への助成により、グリーンキーパー3名を配置しました。これにより春から秋は植栽等の森林整備を中心とした山仕事全般に従事し、冬は高畑スキー場での勤務と年間雇用を実現しました。

3名の出身地は県内2名、栃木県1名で、それぞれの前職は伐採業、調理師、塾の講師とさまざまです。

森林との共生を目指し、林業の道に入られたグリーンキーパーの方々の意見を紹介します。

「林業の経験は全く無く、体力が続くかどうか心配でした。しかし周りの方々のサポートがあつく、植栽や間伐、下草刈りなどの森林整備等を通して、都会では決して感じる事が無いものを感じることができました。」

「今後は、一生懸命やるというスタンスで、職場の中に林業の楽しさプラス『地域の人達とのふれあいの中で得られる本当の楽しさ』というものが見つけられると思います。」

こうした意見を伺い、伊南村の森林を守るためには、よりよい職場環境や地域住民とのふれあいといったものを提供する必要があると考えます。

私も、伊南村の豊かな自然を利用した産業をサポート出来るような森林づくりをはじめ、山や川などの貴重な資源をうまく使って地域活性化ができるように、また、森林の素晴らしさ、重要性を広く住民の方々に知ってもらえるよう今後も努力していきたいと思っています。



森林の維持・継続に活躍されています

## ★ この人を知りたい

# 「日本農業賞福島県代表に導く」

南郷村下山 栗城 晃さん

栗城さんは、南郷トマト生産組合長として活躍され、この度「第29回日本農業賞」の福島県代表となるのに貢献してきました。

南郷村では昭和37年に初めてトマト栽培を導入、昭和49年に南郷トマト生産組合が町村を超えて結成されました。昭和50年に大型の選果場ができてから、急速に生産量、生産者を増やしました。昭和51年に指定産地となり、現在では南郷村だけでなく、館岩村、伊南村、只見町、田島町の5町村に広がり、130名の組合員数を誇っています。

現在では全国に「南郷トマト」の名前が知れるまでになっていますが、栗城さんが栽培し始めた昭和41年当時は「価格が安く売れなかった」と苦労もあったと言います。また、40年代には、水害によりトマト畑、水田が全滅したり、過去最高の収穫があった平成8年には、0-157の風評被害を受け、価格が暴落したりと組合長としてつらい時もあったと言います。

トマト生産組合にはIターン者も増えていますが、技術を学んでもらうために、Iターン者の受け入れを行うなどの後継者育成にも力を入れています。

また、冬場には3回の勉強会（トマト講座）を開くなど、技術の向上にも余念がありません。マルハナバチによる受粉、防虫網の設置、又は点滴かん水によって養分を効率的に与えるなど、新しい技術による品質の向上と減農薬に努めています。



夫婦の連携もばっちりです（左は奥様の昌さん）

土作りにもこだわりをもち、10アール当たり2トンの堆肥を生産者に供給するなど更に知名度を高めるための努力も怠っていません。販売面では、組合員はすべてファクスを導入し、迅速な情報収集と伝達に努めて市場評価も高まっています。

「うちの組合員はチームワークがいい。ハウス建てや、収穫時などの手伝いなどは協力し合う」と言いますが、町村、JA、普及センターなどとの連携も良く、栗城さんの人柄の良さが周りの人たちを動かしているような感じがしました。

「安全で美味しい南郷トマト」とPRする栗城さんは、美味しいだけでない、消費者に安心してたべて頂けるトマト作りを目標としてこれからも南郷トマト生産組合を引っ張っていくものと思われました。

## 特集！ 今後の米の生産調整対策について

### はじめに

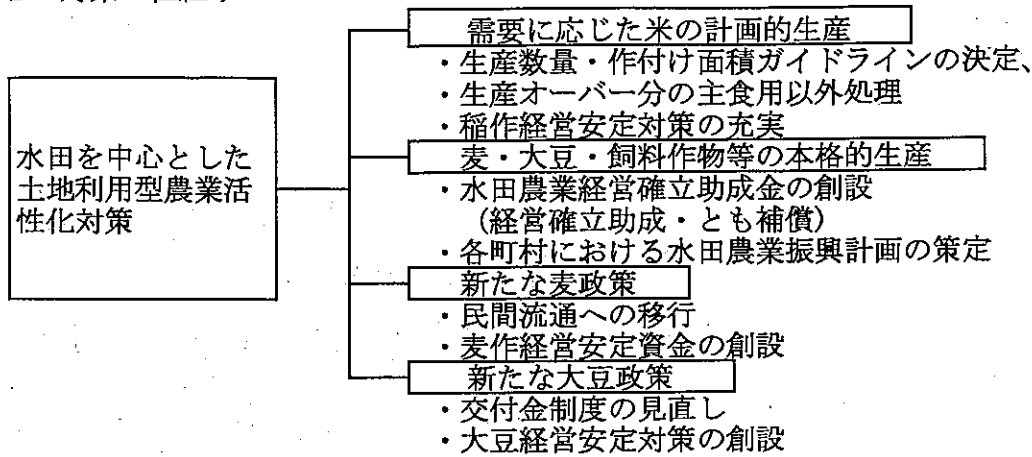
昨年制定された食料・農業・農村基本法に基づき、「水田を中心とした土地利用型農業活性化対策大綱」が策定されました。平成12年度より、この大綱に基づき米の生産調整が行われるわけですが、そのポイントは次の図1のとおりとなっています。

この対策は、需要に応じた米の計画的生産を実施して、米の需要と供給のバランスを正常にし、

価格の安定を図るとともに、麦・大豆・飼料作物等（等とはソバ・花卉等の土地利用型作物が含まれます。）の本格的生産や地域振興作物の生産による、水田を利用した農業の多角的経営を目指しています。

今回は、この中の稲作経営の安定化を目指す「稲作経営安定対策の充実」と土地利用型作物の本格的生産を目指した「水田農業経営確立対策の創設（経営確立助成・とも補償）」について説明します。

図1 対策の仕組み

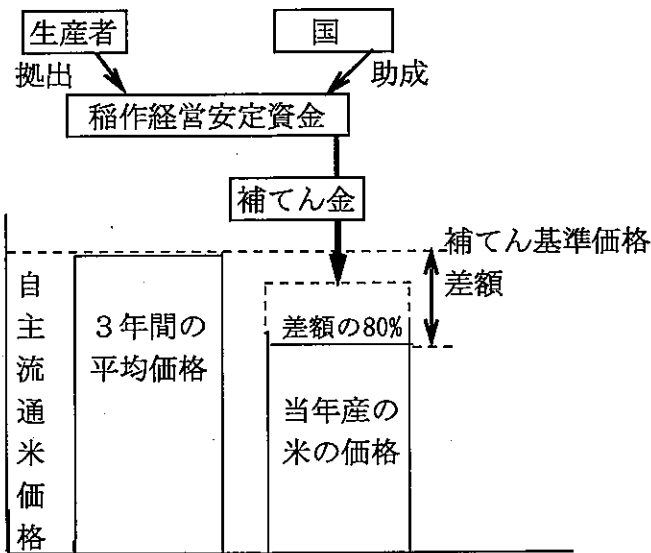


**稲作経営安定対策**

まず、稲作経営安定対策ですが、近年3年間の米の平均価格を補てん基準価格とし、その価格の2%の額を農業者が拠出して、国の助成を併せて基金を作り、米価が下落した時に補てん金を受ける制度で、いわば稲作経営の保険のような制度です。その制度が、さらに次の点で充実しました。

① 認定農業者においては9割の高い補てんを受

表1 稲作経営安定対策の内容



けられる。② 計画外流通米も補てんが受けられる。また、積み立てが1年分を越えた場合は(資金管理は農業者ごとに行っています。)、③ 特別支払いや④ 翌年の拠出を少なくする軽減措置も選択できます。

要件等は表1のとおりとなりますので参考にして下さい。

表1-2 加入要件

- ・米の計画的生産実施者(生産調整達成者)
  - ・とも補償に係る拠出を行った農業者  
作付け10a当たり4000円  
(参考:11年は4154円)
  - ・米の需給調整・需要拡大基金(生産オーバー分の処理経費)の拠出者  
作付け10a当たり1500円  
(参考:11年は1727円)
- 以上すべてを満たす農業者となります。

**水田農業経営確立助成金**

次に、水田農業経営確立助成金の創設(経営確立助成・とも補償)ですが、今回、助成体系は、大幅に変更されました。

経営確立助成では、団地化や担い手への農地集積における土地利用型作物(大豆・ソバ・花卉など)の作付け体系に対して多く助成し、不作付け等に対しては助成金が少なくなりました。

とも補償においては、地域ごとに交付単価を設定でき自主性が発揮できることや、拠出金については水稻作付け面積当たりの拠出となり(作付け

10a当たり4000円(参考:11年は4154円)、拠出金よりとも補償受取額が少なくなるという点などが改善されました。

※ なお、とも補償の交付単価については、市町村ごとの水田農業振興協議会の中で決定されますので市町村により、若干異なってくる可能性があります。

新しくなった助成額は、南会津のイメージとして図2に示しましたので参考にしてください。

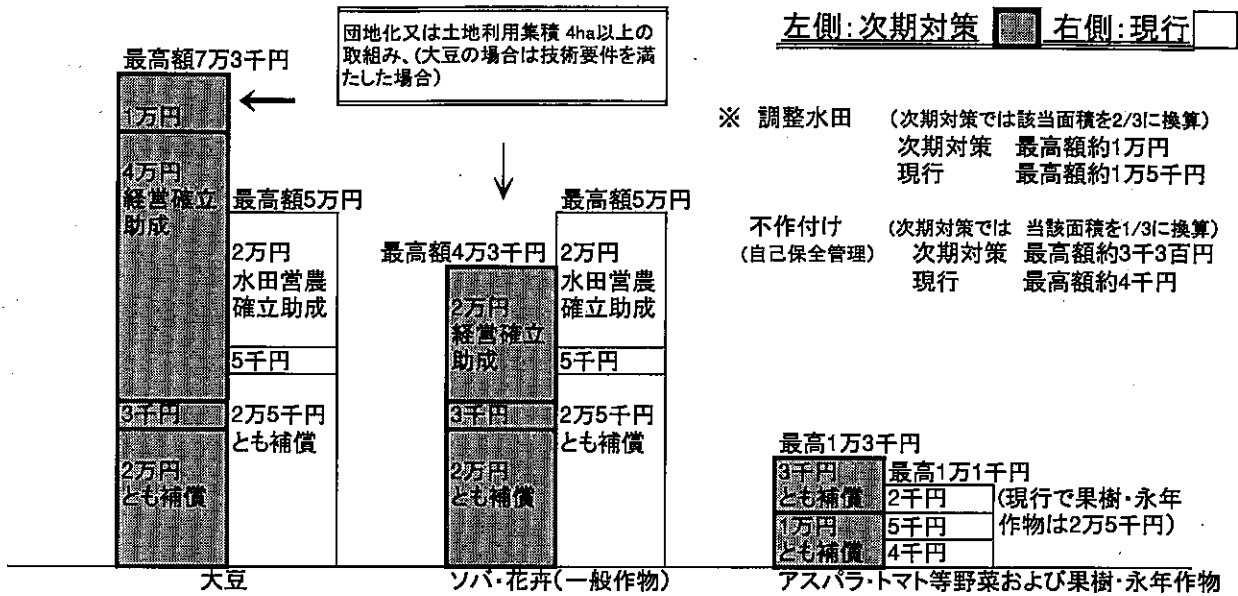
## おわりに

今後は、これらの助成措置をうまく活用して生産調整に取組み、稲作経営の安定化を図ってください。また、将来の水田農業のあり方を地域でじっくり考え、水田の有効活用法の検討や担い手の

育成に取り組まれますようお願いいたします。

なお、ご質問等ありましたら地元の役場・JA・農林事務所農業振興部・普及センターまでお問い合わせ下さい。

図 2 南会津における助成体系のイメージ  
(10a当たりの助成額)



## ～研修会・講習会のお知らせ～

### 農業短期大学校・会津農業センター研修

内 容	日 時	場 所
①農産加工研修： 「農産加工品の包装とパッケージデザイン」	2/16	農業短期大学校
②農業機械研修：「ガス溶接基本」	2/22～23	郡山高等技術専門校
③農業機械研修(応用コース)： 「トラクタけん引」(第2回)	3/13～17	農業短期大学校内

※お申込み・お問合せ先：南会津地域農業改良普及センター TEL 0241-62-5262

## 生活の知恵

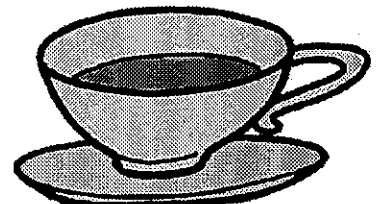
### ひき始めの風邪に効く簡単ドリンク

風邪が流行る2月。みなさんは大丈夫ですか？

風邪に特效薬はありません。ひいてしまったら安静にして体を温めるのが一番の治療法です。

日本酒で作る卵酒が飲みづらい人は、お酒の入っていない『エッグノッグ』なら栄養もあるし、体も温まります。作り方も簡単ですので試してみてください。

まず、牛乳を温め、よく泡立てた卵に少しずつ加えて混ぜ合わせます。甘みはハチミツでつけて、お好みでシナモンパウダーを振ったり、ラム酒やブランデーを少し加えても美味しいです。



## 「妻」語録

連れ添ってはや35年余、妻からのチクリ語録のいくつかを……。

その1 「袋はいりません。中身をください。」

就職の翌年に結婚、月給袋のあまりの薄さに。

以来、一度もそっくり渡したことはなし……。最初が肝心。

その2 「夫は、放牧である」

単身生活通算12年。札幌に赴任していようが、いわきであっても、田島でも、もちろん一緒の時も常に牧柵があります。……「監視していますよ」の意。

その3 「夫のロマンは、妻の我慢」

趣味を満喫し、冠婚葬祭、宴席、旅行とほとんど出席。

……「私のおかげでしょうに」。

その4 「趣味、好み、なにも合わずに30年」

勤続30年表彰、ささやかなお祝いの席、「盆栽に、登山に、写真に酒では、合わせようがありません」と。……別々がむしろ円満？

等々

先の20号に記した故、<sup>といんねん</sup>杜院念はこうも詠んでいる。

「折節の 妻の言葉に この老いは

ちくりちくりと ちくられて居る」

以来、生前はちくり先生と呼ばれていたとのこと。

今や人生80年。これからの老後を、人生を、皆様も、奥様または旦那様の“ちくり”などにめげずに楽しくお送りください。

所長 横田

## 3ヶ月予報

仙台管区气象台発表の「東北地方3ヶ月予報」

2月 平年に比べ、東北日本海側ではくもりや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では晴れの日が少ないでしょう。

3月 天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。

4月 天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に、東北地方では晴れの日が多いでしょう。



## お問い合わせ

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

郵便・FAXどちらでも結構です。

あて先 〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所企画部 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5349

この広報誌は再生紙を使用しております